

(I. N. 13; I. S. 2; II. E. 1) 'されど少くとも此等の碑文が特に之に關説せる時代には彼等は絶えず突厥に對して不平にして且つ叛亂の状態にありき (I. E. 22; I. N. 4; II. E. 29-; "35; "38) 'すべて此等の記事に就きて考ふる時は、Oyuzが他の名稱、即ち Ouigours と稱せらるゝものと同じのものたるべきは殆んど疑ふ可らず、恐らくこれ Ouigours が Oyuz の支族なりしに由るならん、支那人は Ouigour の名を種々の文字にて書けり、隋代には韋紇 (Wei-ho) ' 唐代には廻紇 (Houi-ho) ' 而して七八八年以來は回鶻 (Houi-ho) と書き、蒙古時代には畏兀兒 (Oui-ngou-rh) 或は畏吾兒とも書けり、されど古くは同じ意味に於てまた烏護 (Wou-ho) 烏紇 (Wou-hou) なる名も見ゆ、思ふに此等の兩者は突厥語の Uiyur に應ずるものにあらずして、Oyuz に相當するものなるべし、唐代に於ては此の部族より系統を引ける廻紇は、大漠の北方、今日の蒙古の北方に國を建てたりき、彼等は突厥に屬したりしが、七世紀の初めには鐵勒の他の部族と協力して之に叛き、獨立を宣言して廻紇なる名を取るに至れり、彼等の可汗は Selenga 河上に住み、少しく後には Tola 河上に居を定めしが、六三〇年に至りて支那の主權を認め、其の土地は支那の州に則りて治められ、其の首領は支那の官人として認められぬ、突厥に對しては、七四五年に其の國を討滅するに至る迄屢々戰を交へたり、當時回鶻は九姓 (Neuf tribus) に分れたり、回教徒の著者はまた彼等に關する傳説を記せるが、就中 Rachid-eddin は Ouigours 特に Tokuz-Ouigours (九〔姓〕回鶻) の古き建國を、之と同地方に置き、而して他の Ouigours 即ち (On-Ouigours 十〔姓〕回鶻) は更に南方に國を建て、其の地より西方に移住したりとせり、(回教徒の著者の中には *tyzyz* 即ち *tayazjaz* なる形にて一トルコ族の名が傳へらる、今日之を *tyzyr* 即ち *tozyzyor* = *Togouz-Ouigour* なり